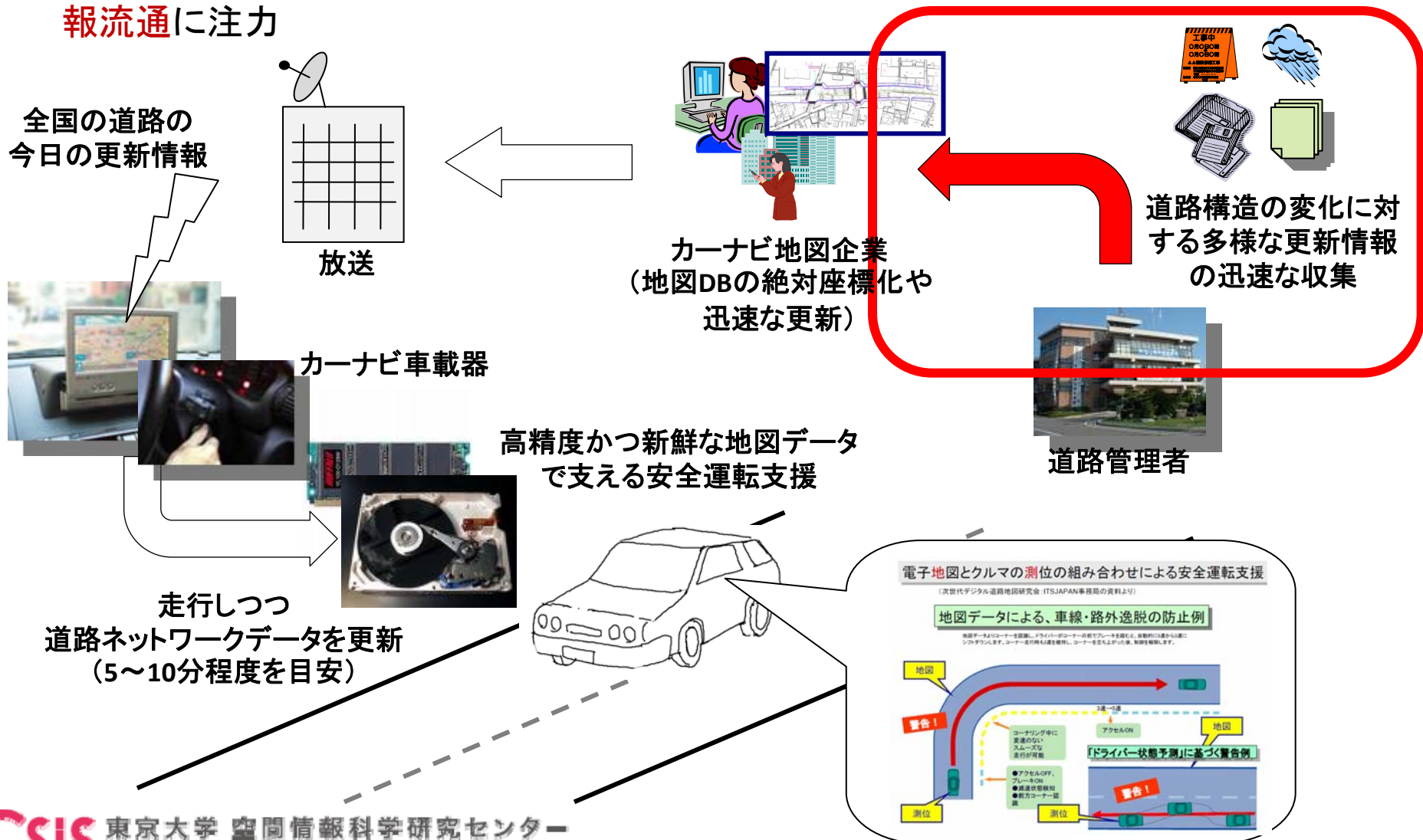


# サービスイノベーション型空間情報社会基盤に関する研究開発

研究代表者：東京大学 関本義秀

## 研究の位置づけ

- 地図更新の上流工程となる「道路管理者→カーナビ地図企業等」間の道路更新情報流通に注力



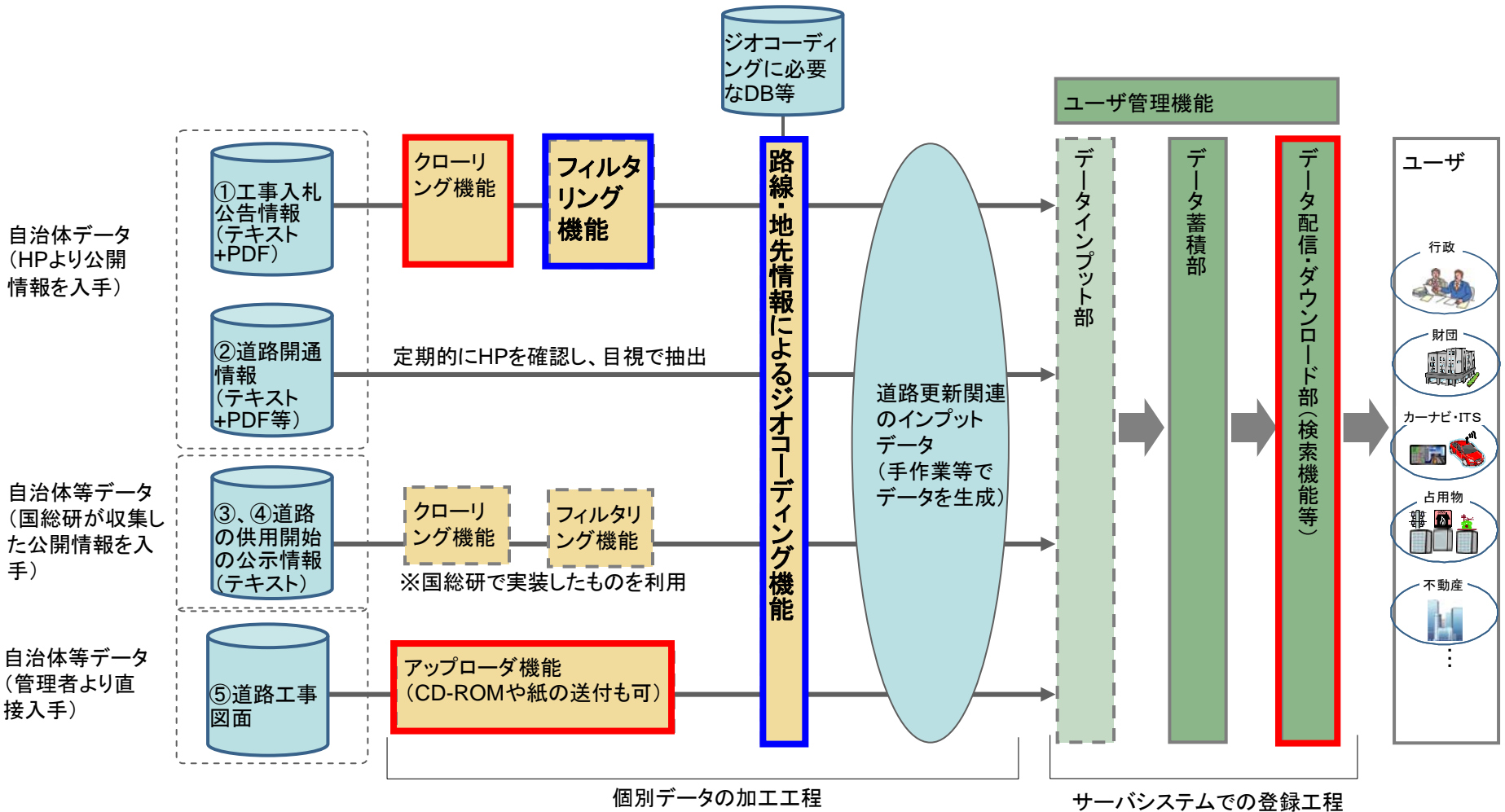
# 基本方針を受けた

## システムのリクワイヤメント

- 公開のメタ情報(文字情報)については、工事入札情報・道路開通情報・供用開始の公示等、道路事業に関する公開サイトを対象としクローリングを行いつつ、道路構造の変化に関するものをフィルタリングする機能を持つこと。
- 未公開の図面情報については、50MByte程度までのCADデータやPDFデータなどが現実的な時間(1~2分以内)でアップロードでき、その際に位置情報もアップロードできること
- 場所に関する情報は多様な形で受け入れつつ、一元的に位置(路線上の緯度経度)で検索できるよう、登録時に路線ジオコーディング機能を有すること
- データが行政区分(都道府県・市区町村単位)とデータ種類のクロスで、数十万件のPOIが10秒程度で検索でき、1000件程度(数百MByte程度)が該当しても、数分で圧縮・ダウンロードができること

※下線部はとくに世の中にはないもの

# 多様な道路更新情報を受け入れる 自動収集システム全体のアーキテクチャ



# 本年度のまとめ

## ● 今年度行ったこと

- ✓ 今年度(2年目)は、1年目のフィージビリティスタディをもとにニーズと課題を整理し、それらをもとに道路更新情報流通を実現するシステムの基本方針・リクワイアメントを具体化した。
- ✓ 流通を支援する一通りのプラットフォーム(プロトタイプ)を構築し、データを登録・検索できるようにするとともに、アンケートで使い勝手や期待感などについても統計データを取った。
- ✓ 情報提供者とユーザーが会話するコンソーシアムを立ち上げ、今後の流通実験を行う場を具体化した。また、今年度は、3府県から情報提供を頂き多数のユーザー側参加者があった。

## ● 来年度の目標

- ✓ 全国の1/3程度(10~15)の都道府県での展開を行い、システムの汎用性を高め高度化する。
- ✓ 本研究後に運用ステージに至れるよう、とくに道路管理者側とも議論を重ね、制度設計の具体的なオプションを絞り込む。